



2004 ITU インターナショナルイベント 東京港大会
第10回日本トライアスロン選手権東京港大会
2004 ジャパンカップシリーズチャンピオンシップ大会
 2004 NTTトライアスロンジャパンカップ第7戦
 2004年10月24日開催



底力を見せたアテネ五輪代表
 ~ 第10回日本トライアスロン選手権
 2004 ジャパンカップシリーズチャンピオンシップ ~

< 女子 >

全国から集まった48名の精鋭が気温12.4、水温18.5のお台場の海に飛び込んだ。アテネ五輪代表組対若手アスリートの対決が予想されたが、スイム好位置でフィニッシュした関根明子(NTT 東日本・NTT 西日本)、中西真知子(NTT 東日本・NTT 西日本)、庭田清美(アシックス・ザバス)の3名のオリンピックが、バイクに入ると10人の集団を形成し、日本選手権のレースの流れを自ら作り上げた。若手の選手達は、この3名のレース展開についていくしかなかった。

バイク終盤からは、関根が集団をコントロールし、中西、庭田をけん制し始めた。ランで飛び出した関根はすぐにトップを快走。2周目から庭田が関根に追いつく勢いを見せ、2位をキープする走りになった。

最後は余裕の笑顔を見せながら、関根が堂々の1位フィニッシュ。日本選手権タイトルとともにNTTジャパンカップチャンピオンも獲得。2位には庭田。3位にはスイムから上位につけた忽那静香(日東紅茶 / アテネ五輪・補欠)が公式戦初のうれしい銅メダル。

期待の中西はランで順位を落とし、6位フィニッシュ。白熱したレース展開は2004年オリンピックイヤーの掉尾を飾るにふさわしいものとなった。

< 男子 >

午前10時30分スタートの男子(82名)は、海外参加選手9名を含め過去最高の選手数となった。スイムをトップで上がったのは、2004ジャパンカップ2勝(和歌山、七ヶ浜)の平野司(関西大学)。打倒アテネ五輪組の宣言通り、バイクコースに飛び出した。しかし、冷静な走りを見せる田山寛豪、西内洋行(ともに、チームテイケイ)の2人は、バイク2周目に平野に追い付き、第1集団を形成。バイク7周目には第2グループも加わり、約30名の大集団のまま、ランスタートとなった。

この時点で、オーストラリアのカートニー・アトキンソン選手がトップに出ることも予想されたが、ラン1周目に飛び出したのは、アテネ13位の田山。勝負は、レースを引っ張ってきた平野、実力のアトキンソン、巧者の西内の4人に絞られ、ランでの駆け引きが続けられたが、田山が飛び出し、後続に大きく差をつけ最終周回に入った。2位、3位争いに注目が集まり、一時はアトキンソン4位、西内3位、平野2位と日本人がメダル独占を予想させた。しかし、残り200m地点からアトキンソンがスパートをかけ、西内、平野を抜き2位フィニッシュ。3位にはスイムから自分のスタイルを貫いて積極的なレースを展開した平野が入り、初のNTTジャパンカップチャンピオンを獲得。

優勝は、アテネからの帰国第1戦となった田山が公約通り、トップでフィニッシュ。王者の貫禄さえ見せる理想のレース展開を見せた。五輪代表の田山が世界の走りをアピールした男子日本選手権だった。

95000人がお台場で日本最高のレースを観戦したことは、トライアスロンのメジャースポーツへのステップアップを感じさせる大会であった。

